

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所  
解放新聞和歌山支局

〒640-8314  
和歌山市神前 405-3  
TEL 073-473-2301  
FAX 073-473-2302

発行責任者  
松本貞次



さまざまな地域の声に熱心に聞く参加者

# 生活福祉運動部 ブロック別交流会

第71期生活福祉運動部ブロック別交流会を10月17日、大阪ベイタワーでひらかれ、7府県27人が参加した。

山崎鈴子・生活福祉運動部長は、地域の実状をふまえてきたが、参加者から出される反省や諸課題を共有したいという声からブロック別交流会がスタートした。さまざまな実践をされてい

る人が多いので、とりくみを学びながら交流したいとあいさつした。

交流会では、事前のアンケート調査集約の資料を活用しながら各府県連でのとりくみや地域の実態などが報告された。

来年4月から施行される「生活困窮者自立支援法」にかかわって、隣保館が大

きな役割を果たすことになり。行政を巻きこんだしくみづくりが重要。地域を知らない、地域の問題を把握しづらいので、単なる公民館になりがち。また、貧困の連鎖が大きな問題。子ども会でも横のつながりが少なくなり、地域がみえにくい。学校から「なんとか合せてはじめて知ることも

ある。地域福祉に関しては、都市と山間地という二分化が顕著。小学校の統廃合で地域が希薄になっているなど、さまざまな問題がだされた。まとめを山崎部長から「地域によって実態が違うが、生活によりそった支部や相談員の人材育成が大切」とのべた。

# 全国人権保育研究会ひろく

第37回人権保育研究会・第49回滋賀県人権保育研究会を11月29・30日、滋賀県米原市でひらかれ、全国から1575人、和歌山から27人が参加した。

オープニングでは、広野町の青少年を中心に結成された和太鼓集団「当為」が参加者を歓迎した。つぎに「子どもの人権、子どもの権利から見た保育とその捉え直しについて」と題して

分科会では、参加者から「乳児の人権について」「おなかのすき、おむつが濡れて泣く、嬉しくて笑う、すべてが受け止められ、安心して暮らすことが人権」という言葉にハツとした。すべての基本に立ち返らされた」と語った。

授は「『いのち』を輝かせ、その子らしい『生きる物語』を創造するために『日々、充実した生の営み』を送る、これが生きるということであり『生活』。この営みがなんらかの社会的要因で阻害されたとき、要因を取り除き、元来の『生活』を送る支えになる、これが社会の責任であり、その保証を



あいさつする吉岡正博・教育文化運動部長

# 頑健

沖繩・石垣島出身の歌手、BEGGIN(ビギン)が奏でる曲は、多くの本土の人が聞き知るところである。しかし、沖繩の歴史や現実に興味をもち身近に感じる人は少ないのではないかと石垣島のある八重山は、薩摩藩と首里王府の二重の支配と搾取による人頭税(一六一一年)が3百年つづき、多くの人の生活と生命を陥れた。また、明和の大津波(1771年)で、震源地に近かったため人口の半分の9千人が亡くなるなど壊滅的な被害をうけた。戦争中の話は皆も知っているとおりで

▼「ソテツ地獄」から抜け出すために県外へ移住した沖繩の人は、移住先で悪質な差別をうける。「琉球人お断り」と書かかれ、生活や就職を制限され、低賃金で過酷な労働を強いられた▼1万6千人の命を奪った3年前の東日本大震災で被災した人びとが、面従腹背する政府に翻弄され、故郷に帰れず避難所生活を送る人や地元に残っても仕事がなく、政府からの支援も打ち切られ、自死を選ばざるを得ない状況がつづいている▼歴史のなかで日本の捨石のような存在であった沖繩、そして東北はもろろん、気がつけば「日本」という国自身が捨石にされるかもしれない大きな危機にいまあると思う。(A・H)